

氏名(本籍) : 小宮山 貴 将
学位の種類 : 博士 (歯 学) 学位記番号 : 歯 博 第 7 0 6 号
学位授与年月日 : 平成 27 年 3 月 25 日 学位授与の要件 : 学位規則第 4 条第 1 項該当
研究科・専攻 : 東北大学大学院歯学研究科 (博士課程) 歯科学専攻
学位論文題目 : 地域高齢者の現在歯数, 歯科受診と要介護認定との関連
論文審査委員 : (主査) 教授 小 坂 健
教授 菊 池 雅 彦 准教授 相 田 潤

論文内容要旨

増加の一途をたどる要介護高齢者数への対策として、顎口腔の環境および機能を介してアプローチすることは過去の報告より根拠に基づいていると推察されるが、顎口腔の環境および機能と要介護認定の直接的な関連を示した報告はほとんど無い。本研究では、顎口腔環境の指標として広く用いられている現在歯数、顎口腔の環境および機能を維持するために必要と考えられる歯科受診に着目し、地域高齢者を対象とした前向きコホート研究にて、現在歯数および歯科受診と要介護認定との関連を検討した。

2003年に、宮城県仙台市宮城野区鶴ヶ谷地区に居住する70歳以上の地域高齢者834人（平均75歳、女性52%）に対し口腔内診査および質問紙調査を含む心身の総合機能評価を実施し、その後の要介護認定を追跡した。歯科受診に関する質問紙調査では、かかりつけ歯科医の有無、歯科受診動機、最終受診の時期について質問をした。解析には、年齢、性別、疾患既往歴（高血圧、脳卒中、心筋梗塞、関節疾患）、飲酒、喫煙、最終学歴、栄養状態、抑うつ傾向、認知機能、身体機能、ソーシャルサポートを補正したCox比例ハザード分析を用いた。

平均6.2年の追跡の結果、要介護認定は37%（304人）に認められた。要介護認定の累積発生率は、現在歯数、かかりつけ歯科医の有無、受診動機、最終受診の時期において有意に異なっていた（Log-rank test < 0.05）。Cox 比例ハザード分析より、20歯未満およびかかりつけ歯科医の不在は要介護認定と有意な関連を示した。多変量Cox 比例ハザード分析において、20歯以上に対する10-19歯、1-9歯、0歯の要介護認定のハザード比（95%信頼区間）は、それぞれ1.41（1.03-1.93）、1.44（1.03-2.00）、1.48（1.04-2.11）と有意に高値を示し、かかりつけ歯科医ありに対するなしのハザード比（95%信頼区間）は、1.38（1.02-1.85）と有意に高値を示した。受診動機および最終受診の時期については、多変量Cox 比例ハザード分析の結果、要介護認定との有意な関連は認められなかった。

地域高齢者を対象とした前向きコホート研究の結果、現在歯数が20歯を下回ることもおよびかかりつけ歯科医が不在であることは、疾患既往歴、心身機能、生活習慣、社会的要因と独立して要介護認定と関連していた。

審査結果要旨

本研究では、増加の一途をたどる要介護高齢者数への対策として、顎口腔の環境および機能を介してアプローチすることの検討を行っている。しかしながら、これまで顎口腔の環境および機能と要介護認定の直接的な関連を示した報告はほとんど無い。本研究では顎口腔環境の指標として広く用いられている、現在歯数、顎口腔の環境および機能を維持するために重要と考えられる歯科受診に着目し、地域高齢者を対象とした前向きコホート研究（鶴ヶ谷コホート）として、要介護認定との関連を検討している。

2003年に、宮城県仙台市宮城野区鶴ヶ谷地区に居住する70歳以上の地域高齢者834人（平均75歳女性52%）に対して、口腔内診査および質問紙調査を含む心身の総合機能評価を実施し、その後の要介護認定を追跡している。歯科受診に関する質問紙調査では、かかりつけ歯科医の有無、歯科受診の動機、ならびに最終受診の時期について質問した。解析には、年齢、性別、疾患既往歴（高血圧、脳卒中、心筋梗塞、関節疾患）、飲酒、喫煙、最終学歴、栄養状態、抑うつ傾向、認知機能、身体機能、ソーシャルサポートを投入したCox比例ハザード分析が用いられた。

この研究により、平均6.2年間の追跡機関期間の、要介護認定は304人（37%）であった。要介護認定の累積発生率は、現在歯数、かかりつけ歯科医の有無、受診動機、最終受診の時期において有意に異なっていた（Log-rank test <005）。Cox比例ハザード分析より、20歯未満、および、かかりつけ歯科医の不在、は要介護認定と有意な関連を示した。多変量Cox比例ハザード分析において、20歯以上に対する10-19歯、1-9歯、0歯の要介護認定のハザード比（95%信頼区間）は、それぞれ1.41（1.03-1.93）、1.44（1.03-2.00）、1.48（1.04-2.11）と有意に高値を示し、かかりつけ歯科医ありに対して、かかりつけ歯科医なしのハザード比（95%信頼区間）は1.38（1.02-1.85）と有意に高値を示した。受診動機および最終受診の時期については多変量Cox比例ハザード分析の結果要介護認定との有意な関連は認められなかった。

これらの結果から、地域高齢者を対象とした前向きコホート研究の結果現在歯数が20歯を下回ることも、かかりつけ歯科医が不在であることが疾患既往歴、心身機能、生活習慣、社会的要因と独立して、要介護認定と関連のあったことが明らかになった。

本研究によって得られた成果は、今後の歯学における臨床・研究の新たな展開に大いに貢献するものと考えられ、本論文が博士（歯学）の学位に相応しいと判断する。